

## 4 各部署の活動状況

診療部	
内科系診療部	32
外科系診療部	38
薬剤部	
薬剤科	43
診療技術部	44
放射線技術科	45
臨床検査科	46
臨床工学科	47
リハビリテーション技術科	48
栄養科	49
看護部	50
2病棟	51
3病棟	52
4病棟	53
5病棟	54
6病棟	55
外来（内科系）	56
外来（外科系）	57
外来（消化器疾患センター）	58
人工透析室	59
中央手術室	60
認定看護科	61
退院支援科	61
地域医療支援センター	62
医療安全管理センター	63
事務部	64
総務課	65
医事課	66
DMAT（災害派遣医療チーム）	67

# 内科系診療部

## スタッフの人員構成

(令和7年4月1日現在)

当院内科系診療部は、総合内科1名、循環器内科3名、腎臓内科3名、小児科3名、放射線科2名、消化器内科6名の計18名が常勤で診療に当たっています。

## 総合内科

### スタッフ紹介



部長 吉井 博

### 診療内容

例えば発熱がある時、何かの感染症を疑うことが多いでしょうが、感染症以外にも血液疾患、血管炎、膠原病、悪性腫瘍なども鑑別疾患に入ります。総合内科の仕事の一つはこれらの診断にあり、診断がつくと治療は担当の専門科にお願いすることが多いです。

### 外来診療案内

- 初診及び再診外来：月～金曜日 午前
- エコー、腹部エコー、下肢エコー、甲状腺エコー、心筋シンチ、動脈CT：随時

### 令和6年度診療実績

- 外来患者数（延人数）：2,286人
- 入院患者数（延人数）：5,277人

### メッセージ

エビデンスに基づいたリスク評価と管理を行っています。

# 健康管理科

## 診療内容

健康管理科は内科学を基礎に健康を科学的に把握し、総合的医学を実践する診療科として位置付けられ、予防医学の観点から、特に第一次予防と第二次予防としての人間ドックと健康診断を主体とした診療を行っています。

疾病の早期発見・早期対処から人間ドック・健康診断後の事後指導まで一貫した健康管理の体制を整備して受診者の満足度を高めることに重点を置いた医療を心掛けています。

## 外来診療案内

○外来診察：月～金曜日 午前

健康管理科の診療は月曜日から金曜日まで内科外来の診察室で実施しています。午前中は主に血液・尿検査や各種画像検査を進め、上部消化管内視鏡検査を含めた検査結果が出そろった時点で、受診者の方々に診察と結果説明及び人間ドック・健康診断後の事後指導を行っています。

日本人間ドック学会及び労働安全衛生法に基づいた検査項目のほか、オプション検査として腫瘍マーカー検査や婦人科系がん検診に加え、頸部・腹部超音波検査、肺CT検査、頭部MRI・MRA検査や大腸内視鏡検査などの画像診断検査を数多く採り入れ、各臓器のがん検診に取り組んでいます。

## 令和6年度診療実績

○人間ドック：246件      ○各種健康診断：1,814件

## メッセージ

健康寿命の延伸と生活の質の向上を目指し、自らの健康は自ら保持・増進させるとともに、人間ドック・健康診断を活用しましょう。

# 循環器内科

## スタッフ紹介



部長 山下 素樹



医長 大西 菜月



上野 勇輝

## 診療内容

狭心症、心筋梗塞等の冠動脈疾患、心不全、不整脈、閉塞性動脈硬化症等の循環器疾患や高血圧、脂質異常症等の生活習慣病を主に担当していますが、それ以外の内科疾患に対しても対応します。

専門疾患以外の場合には、院内の専門医若しくは他の専門病院へ紹介することがあります。

## 外来診療案内

- 初診及び再診外来：月～金曜日 午前
- 心エコー検査、血管エコー検査：随時
- 冠動脈CT検査、エンドパット検査：月～金曜日（原則予約）
- 心筋シンチ検査：月～木曜日
- 心臓カテーテル検査：月・木曜日（月1回）、隔週火曜日

## 令和6年度診療実績

- 外来患者数（延人数）：9,341人
- 入院患者数（延人数）：7,743人
- 冠動脈造影：79件
- 冠動脈形成術：70件
- 下肢動脈形成術：16件
- アブレーション治療：35件
- PMI（ペースメーカー植え込み術）：新規20件、交換7件（総合内科分含む）

※カテーテル治療、アブレーション治療は日本心血管インターベンション専門医、日本不整脈学会認定専門医に来ていただき行っています。

## メッセージ

当院では、外来での通常診療に加えて、夜間休日の急性心筋梗塞、不安定狭心症の患者に対しても可能な限り対応し、緊急カテーテル検査、治療を行っています。不整脈に対しても、薬物治療だけでなく、カテーテル治療を行うことが可能です。

心臓の血管だけではなく、閉塞性動脈硬化症という足の血管病が増えており、こちらに対するカテーテル治療も行っております。

心臓の病気を持った方にとって運動はとても重要です。しかし、心臓が悪いことで過度な負荷をかけることもできず、徐々に筋力が低下していきます。このような高齢の患者様が増えていることから、当院では外来での『心臓リハビリ』を行っております。心臓の病気を持った患者さんがどの程度まで運動できるのか、どこを目標に運動するべきなのかを医師、看護師、理学療法士など多職種でのカンファレンスを行い、検査結果を基にリハビリを実施します。心臓に不安のある方、心不全を起こしたことがある方、運動が大事なことは分かっているけれども日常で実践できていない方は、循環器内科へ御相談ください。

また、睡眠時無呼吸症候群という、睡眠時に呼吸が止まってしまう病気があります。これは心臓にも大変負担がかかる病気であり、当科でも積極的に診断を行っています。外来でできる簡易検査から入院で行う精密検査まで当科で可能ですので、いびきがひどいと感じている、言われた方は御相談ください。

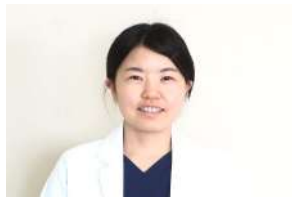
近隣では唯一のアブレーション実施施設ですので、今後とも地域の患者さんや近隣のクリニックの先生方のお役に立てるよう精進してまいります。

# 腎臓内科

## スタッフ紹介



部長 有馬 隆弘



医長 市田 聡美



医長 大塚 薫行

## 診療内容

慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、ループス腎炎、急性腎障害、慢性腎臓病（保存期～透析療法、腎移植の相談）、糖尿病性腎症、多発性嚢胞腎、薬剤性腎障害、電解質異常など。

## 外来診療案内

初診及び再診外来：月～金曜日…午前

○血液透析：月・水・金曜日…午前・午後

火・木・土曜日…午前

## 令和6年度診療実績

○外来患者数（延人数）：10,397人

○入院患者数（延人数）：5,787人

○腎生検：23件

○血液透析：6,936件 患者数：37人（導入29人）

○内シャント設置術（動脈表在化含む）：12人

○経皮的内シャント拡張術（PTA）：18件

○腹膜透析患者数（実人数）：15人

## メッセージ

腎疾患は症状が少なく、気付いたら進行していたというケースが多い病気です。

根本的に治療できる疾患もあれば、腎不全に至ってしまう疾患もありますので、検尿や採血などで異常を見つけた際は早めの外来受診をお願いします。受診の際は、今までの検査結果、おくすり手帳等を御持参ください。

# 小児科

## スタッフ紹介



事業管理者 鮫島 幸二



部長 摺木 伸隆



副部長 今塩屋 聡伸

## 診療内容

各種小児疾患(内科系疾患)を対応しています。  
疾患によっては、専門診療が可能な施設と連携を取りながら治療を行います。

## 来診療案内

- 初診及び再診外来：月～金曜日 午前
- 9～11か月健診：月・金曜日 午後
- 予防接種：火・水曜日 午後
- 心臓検診：木曜日 午後

## 令和6年度診療実績

- 外来患者数（延人数）：2,495人
- 入院患者数（延人数）：485人

## メッセージ

出水、阿久根、長島地域の小児人口は1万人を超えますが、出水保健医療圏域において、小児が入院可能な唯一の医療機関です。地域の医療機関と連携しながら、お子さんや御家族の支えとなれますよう、診療に当たります。小児に関することなら何でもお気軽に御相談ください。

# 放射線科

## スタッフ紹介



部長 浦門 忠仁



医長 河路 広大

## 診療内容

CT、MRI、RI検査の読影

## 外来診療案内

CT、MRI、RI検査：月～金曜日

## 令和6年度診療実績

CT：7,930件      MRI：2,362件      RI：290件

## メッセージ

令和7年度から2年間、地域枠で来られている河路 広大先生が、野田診療所勤務の傍ら読影を行うこととなりました。読影医2名体制の時間ができますので、より迅速に正確で質の高い読影レポートを提供できるよう努めたいと思います。

# 消化器内科

## スタッフ紹介



副院長兼内科系  
診療部長 藤田 浩



部長 荒木 紀匡



医長 市田 泰海



医長 竹中 遥香



大菌 宏輔



徳田 弘幸

## 診療内容

当科では、腹部臓器に起因する各種疾患を扱っています。具体的な疾患は以下のとおりです。

### ○消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸）

腫瘍性：食道がん、胃がん、大腸がん、胃ポリープ、大腸ポリープ

炎症性：逆流性食道炎、急性・慢性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、腸炎

### ○肝・胆・膵

腫瘍性：肝臓がん（肝細胞がん、肝内胆管がん）、胆嚢がん、肝外胆管がん、膵臓がん

炎症性：急性・慢性肝炎（ウイルス性、アルコール性、脂肪肝など）、急性胆嚢炎・胆管炎、急性・慢性膵炎（アルコール性膵炎、自己免疫性膵炎など）

治療内視鏡としては、消化管の早期癌に対する内視鏡的切除術、消化管出血に対する内視鏡的止血術、総胆管結石に対する内視鏡的結石除去術、閉塞性黄疸に対する内視鏡的ドレナージ術（ステント留置）、超音波内視鏡ガイド下治療（胆道ドレナージ）などを行っています。

## 外来診療案内

○初診及び再診外来（予約制）：月～金曜日 午前

○上下部消化管内視鏡検査（胃カメラ、大腸カメラ）、腹部エコー検査：月～金曜日

○胆道膵管造影検査(ERCP)、超音波内視鏡検査（EUS）：主に水曜日

○カプセル内視鏡検査、ダブルバルーン小腸内視鏡検査（随時）

※各種内視鏡検査は原則予約制ですが、緊急時においてはその限りではありません。

※早急に検査、治療が必要な患者さんの場合は休日・夜間でも緊急処置を実施できる体制をとっていますので、御相談ください。

## 令和6年度診療実績

○外来患者数（延人数）：8,254人

○入院患者数（延人数）：11,376人

○入院患者数（実人数）：549人

○上部消化管内視鏡：2,973件

○下部消化管内視鏡：949件

○超音波内視鏡検査：112件

○内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）：126件

○内視鏡的大腸ポリープ切除術：354件

○内視鏡的粘膜下層剥離術（食道・胃・大腸ESD）：31件

○内視鏡的胃瘻造設術（PEG）：54件

○内視鏡的消化管出血止血術：68件

○内視鏡的ステント留置術（消化管・胆道）：64件

○内視鏡的異物除去術：11件

## メッセージ

令和6年度は常勤医師5名、非常勤医師3名の体制で診療を行いました。

当科で扱う疾患はがんなどの悪性疾患から良性の炎症性疾患まで広範囲にわたっています。早期癌に対する内視鏡治療のほか、進行がんに対する化学療法、炎症性腸疾患に対する生物学的製剤治療をはじめ、便秘のような慢性疾患の治療など幅広く行っています。

診断・治療に難渋する患者さんについては、鹿児島大学病院消化器内科と密に連携をとり、患者さんにとって最良の医療を提供することを心掛けています。

当院は日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導連携施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本肝臓学会関連施設に認定されており、若手医師のキャリアアップにも適した施設です。

# 外科系診療部

## スタッフの人員構成

当院外科系診療部は、外科3名、整形外科4名、脳神経外科1名、眼科1名、麻酔科2名の計11名が常勤で診療に当たっています

## 外科

### スタッフ紹介



院長 花田 法久



外科系診療部長  
上村 眞一郎



医長 湯本 信成

### 診療内容

専門医が外来、入院、手術に対応しています。非常勤医師として、隔週で木曜日に乳腺外科の上村医師、金曜日に呼吸器外科の吉本医師が対応します。夜間、休日の救急外来も対応し、いつでも緊急手術ができる体制をとっています。

- 消化器がん全般（胃がん、大腸がん、食道がん、肝臓がん、胆道がん、膵がんなど）
- 甲状腺腫瘍や乳がんなどの乳腺・内分泌腫瘍
- 肺癌や気胸などの胸部疾患
- ヘルニア（鼠径、大腿、腹壁癒痕など）、胆石症、虫垂炎、腸閉塞などの良性疾患

### 外来診療案内

- 外科：月曜日から金曜日午前
  - 乳腺外来：第1、3、4木曜日午前
  - 呼吸器外科：第2、4金曜日午後
  - 緩和ケア外来：毎週水曜日17時
- ※緊急の場合は時間外でも対応します。

### 令和6年度診療実績

- 外来患者数（延人数）：3,099人
- 手術件数：291件
- 入院患者数（延人数）：7,594人
- 外来化学療法：794件

### メッセージ

当院におけるがん診療の特色として、内視鏡治療、手術、化学療法を組み合わせた集学的治療を行うことができます。根治性、安全性を考慮し、最良の治療をより多くの患者さんに受けただけのように力を尽くしたいと考えています。

# 整形外科

## スタッフ紹介



副院長 中村 憲一



医長 南曲 謙悟



医長 藤善 大成



中村 貴大

## 診療内容

- 急性期：多発外傷、多発骨折、スポーツなどによる、骨折、靭帯損傷
- 高エネルギー外傷（転落、交通事故など）：脊椎骨折、脊髄損傷、骨盤骨折
- 高齢者の転倒による骨折：大腿骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折など
- 慢性期：原発性関節症（肩、肘、手関節、股関節、膝関節など）
- 関節リウマチ性関節症
- 変形性脊椎症（頸椎症性脊髄症、胸髄症、腰部脊柱管狭窄症など）
- 小児：先天性股関節脱臼、内反足、斜頸、骨、軟部腫瘍、片側肥大症

## 外来診療案内

- 月・木曜日の午前中（火、水、金は、手術日）  
特に、開業医で治療に難渋する症例の御紹介をお待ちしています。

## 令和6年度診療実績

- 外来患者数（延人数）：8,279人      ○入院患者数（延人数）：20,791人
- 手術件数：320件（骨折、関節症、脊損、脊髄症など）

## メッセージ

全ての患者さんを受け入れます。可能な限り手術施行します。スポーツによるけが予防教室教室など、地域の子供たちの指導に尽力したいと思っています。また、骨粗鬆症教室など、高齢者に対する地域活動も考えています。

# 脳神経外科

## スタッフ紹介



部長 瀬戸 弘

## 診療内容

頭部外傷、脳卒中、脳腫瘍、頭痛、眩暈、てんかん

## 外来診療案内

本年度も常勤は一人体制で、診療は縮小して可能な範囲でさせていただきます。今村医師による火曜日のメモリークリニックは継続中です。令和7年4月から、金曜日に福岡大学脳外科医師による外来支援が新たに始まっています。

## 令和6年度診療実績

- 入院患者：94人      ○外来患者：新患361人、再来患者2,833人、脳ドック31人
- 手術件数：33件（開頭術3件＜脳血管バイパス術1件＞、穿頭術10件、内頸動脈内膜剥離術8件、血管内治療10件＜破裂脳動脈瘤1件、未破裂脳動脈瘤6件、内頸動脈狭窄ステント留置術3件＞、腰椎—腹腔シャント術1件、その他1件）
- ※脳血管バイパス術、内頸動脈内膜剥離術、血管内治療については、済生会熊本病院脳外科加治医師に依頼して施行しています。2024年度は手術症例全体は減少していますが、未破裂脳動脈瘤のコイル塞栓術は増加しています。

## メッセージ

今年度は、脳神経外科の診療体制を更に縮小する予定です。特に脳外科疾患の緊急対応は困難で、主に出水郡医師会広域医療センターに対応をお願いしています。ほかに、国保水俣市立総合医療センターに対応をお願いしています。皆様に御迷惑をおかけしますが、御理解・御協力をよろしくお願いいたします。

# 眼科

## スタッフ紹介



部長 松尾 由紀子

## 診療内容

白内障、緑内障、糖尿病網膜症など眼科の一般的な疾患を主に診療しています。専門的な治療が必要な場合は他の病院へ紹介し、専門病院と連携を取りながら治療を行っています。

## 外来診療案内

症状の急変や緊急の疾患以外では予約の患者さんを優先して診察しています。初診・再診とも基本は予約制のため待ち時間は長くなってしまいますが、当日受診も可能です。

○初診及び再診外来：月・水・木・金曜日の午前

○視野検査や術前検査などの特殊検査とレーザー治療や処置：月・水・木・金曜日の午後

※火曜日は終日手術のため、外来診療は行っていません。

## 令和6年度診療実績

○外来患者数（延人数）： 3,593人

○入院患者数（延人数）： 257人

## メッセージ

当科では白内障手術と翼状片手術を入院で行っています。手術までの待機期間は1.5～3ヶ月と変動があり、術後の完全な視力改善までには約2ヶ月かかります。そのため、運転免許更新前に視力低下の自覚がある方は、なるべく早めに眼科を受診されることをお勧めいたします。

外来受診の予約は、平日の14時以降に電話でも受け付けています。よりスムーズに診察を受けていただくため、緊急や当日受診希望の場合を含め、事前に電話連絡をお願いします。

# 麻酔科

## スタッフ紹介



部長 中筋 あや



中央手術室室長 田尻 晃彦

## 診療内容

予定及び緊急手術の麻酔に対応し、患者さんが安全、安心、安楽に手術を受けられるよう配慮しています。

## 外来診療案内

午前8時30分から、主に手術を受ける患者さんの術前診察を行っています。  
新規のペインクリニックの患者さんはお引き受けしていません。

## 令和6年度診療実績

令和6年度の全手術件数は783件、うち緊急手術は145件でした。麻酔担当症例の実績は、全身麻酔が561例(脊麻、硬麻併用症例を含む)、硬膜外麻酔又は脊髄くも膜下麻酔単独は26例、合計で587例でした。局麻下手術は195例でした。前年度と比較し約10%増加しております。

## メッセージ

麻酔科医は手術室看護師や各科医師と協力し、薬剤科や放射線科、臨床工学科、臨床検査科とも連携して手術チームとして活動しています。最近のトピックとしましては、令和6年度夏から循環器内科の心房細動アブレーション治療を麻酔科専門医による全身麻酔下で開始しました。地域の皆様へ治療有効性と安全性をより高めたアブレーション治療を提供できると思われまます。

令和6年度も常勤麻酔科医2人、非常勤麻酔科医2人の体制で対応できました。マンパワーは充足したため、平日夜間や休日の緊急対応も遅滞なく対応可能となりました。また、出水郡医師会広域医療センターの手術麻酔応援への協力もわずかながらですができるようになりました。救急救命士の気管挿管実習も継続中です。

今後も地道に地域医療に貢献していきたいと考えています。



# 診療技術部

## 令和7年度活動目標

- ・自己研鑽に努め、質の高い医療を提供する。
- ・患者さんに寄り添った医療を実践するため、多職種連携を強化する。



診療技術部長 溝下 育男

## 令和6年度総括

令和6年度において診療技術部では、各科の本来業務を着実に遂行するとともに、タスクシフトの推進にも力を入れ、業務の効率化と専門性を発揮できる体制作りに取り組みました。

また、令和6年度の診療報酬改定に伴い、リハビリテーション・栄養・口腔連携による体制加算への対応を強化し、定期的なカンファレンスや情報共有体制を整えて患者支援を行いました。

さらに、二次性骨折予防のリエゾンサービスにも注力し、医師を中心に看護部・薬剤部・リハビリテーション科・栄養科・臨床検査科・放射線技術科等と連携し、患者の再骨折予防とQOL向上に取り組みました。

令和6年度は、診療技術部にとって連携力と実行力をより一層強化できた一年となりました。

## スタッフ紹介

診療放射線技師：11名

臨床検査技師：14名（うち会計年度任用職員：1名）

超音波検査士：1名

臨床工学技士：8名

理学療法士：18名（うち会計年度任用職員：1名）

作業療法士：13名

言語聴覚士：5名

管理栄養士：4名（うち会計年度任用職員：1名）

栄養士（会計年度任用職員）：2名

調理員：14名（うち会計年度任用職員：8名）

助手（会計年度任用職員）：2名

## メッセージ

診療技術部は、最新の医療知識と技術を取り入れ、より質の高い診療支援を実現するとともに多職種間の連携を深めることで患者さん中心の医療を実現していきます。

また、働きやすい職場環境の整備にも努め、スタッフ一人ひとりが持てる力を最大限に発揮できる体制を築いていきますので、よろしくお願いいたします。

# 放射線技術科

## 令和7年度活動目標

- ・ 目配り、気配り、心配りの3つの配慮ができる職場作り。
- ・ お互いに配慮した多職種連携

## 令和6年度総括

通常業務に加えて、令和7年2月16日に令和6年度原子力防災訓練へ7名参加し、本年度は当院で被ばく傷病者対応訓練を行いました。

また、創立100周年記念ということで、放射線技術科としても行事等への参加や協力を行いました。

## スタッフ紹介

診断部門：放射線科常勤医師：2名、非常勤医師：1名

診療放射線技師：11名

助手（会計年度任用職員）：1名

〈資格認定取得〉

シニア放射線技師：2名

アドバンス放射線技師：1名

医用画像精度管理士：3名

放射線機器管理士：4名

放射線管理士：5名

検診マンモグラフィ撮影認定技師：2名

医療経営士2級：1名

医療経営士3級：3名

放射線被ばく相談員：1名

手術支援認定技師：1名

臨床実習指導教員：2名

Ai認定技師：2名

乳癌検診超音波検査実施技師：1名



## 研修実績

令和6年度 鹿児島県原子力災害医療研修（原子力災害時の医療）

令和6年度鹿児島県原子力防災訓練

令和6年度公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会、秋季学術大会及び第33回北薩地域研修会

## メッセージ

今後とも、質の高い画像診断を目指すことはもとより、医業収益への意識を高め、北薩地域の医療に貢献できるよう日々努力します。

また、医療安全、感染対策に日々気を配りながら業務を遂行します。

そして、チーム医療の一員として他職種との連携を図り、思いやりをもった医療を目指します。

# 臨床検査科

## 令和7年度活動目標

- ・多種類の検査機器の更新や業務の効率化を行い、質の高いデータを提供する。
- ・積極的に多職種との連携を進める。

## 令和6年度総括

- ・検体検査（採血検体）の緊急検査は30分以内の報告を、入院検体は朝8時30分までの結果報告を目標にして業務に当たりました。
- ・超音波認定士の育成や、その他の認定検査技師の資格習得及び学生の指導にも取り組みました。
- ・院内の多職種との連携としてICT、NST活動を行いました。
- ・当直体制にて24時間検査を行いました。

## スタッフ紹介

臨床検査技師：14名（うち会計年度任用職員2名）

超音波検査士：1名

助手：1名

<資格認定取得>

医療安全管理者：1名

認定一般検査技師：1名

臨地実習指導者：1名

タスクシフト研修終了：4名

緊急臨床検査士：1名

認定臨床化学・免疫化学精度保証管理者：1名

NST療法士：1名                      毒物劇物取扱責任者：1名

心電図検定1級：1名                  心電図検定2級：2名

上級バイオ技術者認定資格：1名



## 研修実績

日臨技九州支部医学検査学会シンポジウム座長：1名

日臨技九州支部医学検査学会：9名

九州支部病理細胞診部門研修会：1名

鹿児島県技師会川北薩地区研修会：10名

日本栄養代謝学会学術集会：1名

## メッセージ

患者さんに寄り添い、検査をしてよかったと思える正確・迅速なデータ提供に努めます。

# 臨床工学科

## 令和7年度活動目標

- ・臨床工学科全ての職員が告示研修を終了し、医師や看護師の業務負担を軽減するためタスクシフトに協力する。
- ・個人の能力を高め、出水保健医療圏域の医療の向上に貢献する。

## 令和6年度総括

- ・今年度は技士が1名増えたので、新たな業務として術中のMEP(運動誘発電位モニタリング)を業務の一つに加えた。
- ・学会認定士取得や学会等に参加し、技術を吸収した。

## スタッフ紹介

臨床工学技士：8名

<資格認定取得>

人工透析技術認定士：3名

3学会合同呼吸認定士：1名

心電図検定1級：1名

心電図検定4級：1名



## 研修実績

告示研修（東京）：2名

植込みデバイス関連冬季大会（福岡）

第45回透析技術認定士（東京）：1名

デバイスデータは、こう読む（web）：2名

九州臨床工学技士会（鹿児島）演題発表：1名

九州内視鏡技士学会（鹿児島）：1名

## メッセージ

今後、出水保健医療圏域の人口が減少する中、従事する医療スタッフも減少することが予想されます。スタッフが減少すればその分一人に対する負担が増加するため、安全な医療を提供するためにはAIが組み込まれた医療機器の導入が進んで行くと思われます。当科では、慢性期から急性期までの患者さんに対応するため、新しい技術や装置を駆使して治療に当たってまいります。

# リハビリテーション技術科

## 令和7年度活動目標

- 部署目標 部署全体で平均実施単位数17単位を達成する。  
算定できる加算等の取りこぼしをせず収益増に貢献する。
- 部門目標 PT：自己研鑽と業務改善の二刀流を目指す。  
OT：間接業務を減らして、患者診療を充実させる。  
ST：協力し合って落ち穂拾い（コストをカバー）する。

## 令和6年度総括

患者さんのADL、QOL向上に向けて、リハビリテーション診療を実施しています。  
また、地域リハビリテーション広域支援センターとして地域の住民の方々に向けた支援も実施しています。出前講座として言語聴覚士を講師として派遣しました。  
令和6年度は診療報酬の改定があり、リハビリテーション・栄養・口腔連携加算の算定や二次性骨折予防チームの立ち上げにも取り組みました。

## スタッフ紹介

理学療法士：18名（うち会計年度任用職員：1名）

作業療法士：13名 言語聴覚士：5名

<資格認定取得>

認定理学療法士（脳卒中）：1名

がんのリハビリテーション研修会修了

心臓リハビリテーション指導士

不全療養指導士

心電図検定

3学会合同呼吸器療法認定士

医療安全管理者

停止車両評価インストラクター

上田法治療認定セラピスト

リンパ浮腫指導士

ケアマネージャー

福祉住環境コーディネーター

児童発達支援士

フレイル対策推進マネージャー



感覚統合療法認定Aコース修了

障害者スポーツ指導員中級

認知症ライフパートナー

足育アドバイザー

転倒予防指導士

BLSプロバイダコース資格

地域包括ケア・介護予防推進リーダー

臨床実習指導者研修終了

## 研修実績

鹿児島県作業療法学会 発表：1名

日本循環器学会学術集会

高次脳機能研修会

感覚統合療法初級、応用コース

自治体病院協議会オンラインセミナー

各所属県士会主催研修会

日本ボバース研究会九州ブロック研修会

停止車両評価インストラクター講座

災害リハビリテーション研修会

全国地域作業療法研究大会

## メッセージ

より良いリハビリテーションの提供ができるよう、業務改善も継続して取り組んでいきます。入院時から退院後を見据えて、院内・院外の多職種の方々と連携して支援を行うよう心掛けます。また、リハビリテーション広域支援センターとしても、地域住民の支援にも貢献できるよう取り組んでいきます。

# 栄養科

## 令和7年度活動目標

- ・積極的な研修への参加で衛生意識の向上と衛生環境保持に取り組み、清潔で安全な食事を提供する。
- ・患者さんに寄り添い、患者ファーストの栄養管理を行う。

## 令和6年度総括

令和6年度診療報酬改定で栄養管理体制の基準が大きく見直されたため、医師・看護師他多職種のスタッフと協力して新栄養管理体制の整備を行った。栄養管理介入対象者が全患者の50%から90%に増えたが、会計年度任用職員の管理栄養士を1名採用し、入院から退院までの栄養管理介入が確実に実施できた。今回新設された栄養情報連携料についても、運用体制を整え、件数は少ないが実績を上げることができた。

5月には2024年栄養関係功労者知事表彰をいただき、栄養科職員一同、協力をいただいた他スタッフへの感謝と、今後もより良い給食の提供に取り組もうという意欲を新たにした一年であった。

また、年間を通して出前講座へ講師派遣を行った。学ぶ意欲に満ちた市民の方々と触れ合うことが管理栄養士にとってもうれしく、集団指導技術の向上につながる学びの多い行事だった。

- ・栄養指導：516件（内入院324件 外来192件）
- ・栄養情報連携料：5件
- ・栄養サポートチーム加算：321件

## スタッフ紹介

管理栄養士：4名（うち会計年度任用職員1名）

栄養士：2名（うち会計年度任用職員2名）

調理員：14名（うち会計年度任用職員8名）

<資格認定取得>

NST専門療法士：2名

## 研修実績

日本栄養治療学会：3名

NST研究会地方会：2名

鹿児島県栄養士会：3名

鹿児島県集中治療ケアセミナー：1名

北薩地域集団給食施設連絡協議会：6名

N S T 専門療法士認定制度臨床実地修練：1名



## メッセージ

食べることが「人を良くする」ものとなるよう、栄養科職員一同、努めてまいります。皆さんに顔と名前を覚えていただくために、いろんな場所に足を運んでお話をさせていただきますので、食と栄養について、お困りのことはぜひ栄養科にお声掛けください。

# 看護部

## 令和7年度活動目標

- ・病院経営の視点を持ち業務改善活動を推進する。
- ・患者さんを生活者として捉えた個別的看護展開を実践する。
- ・組織貢献に繋がる自己研鑽、自己啓発を行いキャリアアップを目指す。



看護部長 妙圓園 和代

## 令和6年度総括

令和6年度は看護部長の交代や診療報酬改定もあり、全体的に不安要因が多い滑り出しました。

しかしながら、ACPの取組や身体的拘束最小化に向けた活動も積極的に推進することができたと考えています。新たな取組を推進しながらも自分たちの看護を振り返るための研修会等を継続して開催しました。

## スタッフ紹介

看護師・准看護師：187名（うち会計年度任用職員23名）

介護福祉士：8名（うち会計年度任用職員3名）

看護要員：46名（会計年度任用職員） 合計 241名

### <資格認定取得>

救急看護認定看護師：1名	感染管理認定看護師：2名
緩和ケア認定看護師：1名	皮膚・排泄ケア認定看護師：1名
認定看護管理者：1名	
DMAT隊員：4名（看護師）	災害支援ナース：13名
日本糖尿病療養指導士	NST専門療法士
透析療法指導看護師	透析技術認定士
認知症ケア専門士	介護支援専門員
内視鏡技師	二種衛生管理免許
ACLS（二次救命処置）プロバイダー	
JNTEC（標準外傷看護コース）プロバイダー	



## 研修実績

認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修：2名

認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修：1名

全国自治体病院学会発表：2名

看護補助者の活用推進のための看護管理者研修：4名

ACP研修：4名

認知症ケア研修：4名

看護研究研修：4名

褥瘡管理に関する研修：4名

入退院支援に関する研修：4名

日本褥瘡学会：1名

日本静脈経腸栄養学会：1名

災害支援ナース養成研修：2名

## メッセージ

令和7年度は「認定看護科」と「退院支援科」を新設しました。専門的な知識を活用して地域とのつながりを更に強化していきたいと考えています。社会情勢は厳しく、医療を取り巻く環境も変化しています。自律性を持って問題解決できるよう自己研鑽を継続し、柔軟に対応できる組織であり続けたいと思っています。

# 2病棟

## 令和7年度活動目標

- ・安全な入院生活が提供できるよう業務改善に取り組む。
- ・受け持ち看護師の役割として個別的看護展開が実践できる。
- ・チーム活動・係活動に取り組み、看護の質の維持向上を図る。

## 令和6年度総括

令和6年6月からの診療報酬算定要件の変更に伴い、急性期病棟から転棟受入れ、病床の確保と在宅への退院支援を図り、在宅復帰率、在宅等からの入院受入れ割合等の入院基準を達成できた。

眼科手術、鼠径ヘルニア手術、抜釘術、シャントPTA、テンコフカテーテル交換処置入院、生活習慣病入院の受入れを行った。

受け持ち看護師として社会資源活用を考え、多職種と連携を図り、家族指導・患者指導を含めた退院調整支援を実施した。

ACP・認知症・身体抑制最小化について研修参加者からの学びを共有し、実践活用に取り組んだ。

## スタッフ紹介

看護師：15名

介護福祉士：2名（うち会計年度任用職員1名）

病棟看護補助者：2名（会計年度任用職員） ベッドキーパー：1名（会計年度任用職員）

事務補助：1名（会計年度任用職員）

## 研修実績

看護研究Ⅱ：1名

令和6年度 出水地区集会「ほめる達人」：3名

看護科学研究会令和5年度宮崎研修（Cコース）：1名

看護補助者の活用推進のための看護管理者研修①：1名

実践 アドバンスケア・プランニング1名

看護科学研修会 出水例会：7名

シュミレーション研修：1名

第11回鹿児島セーフティーマネジメント研究会学術集会：1名

令和6年度 日本肝臓学会「肝がん撲滅運動」市民公開講座

「真夏の肝謝祭！！～みんなで肝がえよう！～」：1名

教育研修会 入退院支援：1名

令和6年度 出水地区集会「終末期ケアについて」：1名

倫理研修 よりよく生きるためのACPとグリーフケア：1名

第86回九州内視鏡技師学会：1名

第24回・第25回北薩摩消化器疾患研究会：3名 糖尿病重症化予防研修：4名

出水地区他職種交流研修会：1名鹿児島県公的病院等看護管理者会議倫理研修

倫理的（患者中心）なACPの推進に看護管理者としてどのように取り組むか：1名



## メッセージ

入院・転入の早期から療養先を検討し、タスクシフトでADL拡大又は持てる力の低下予防を図ります。

他職種と連携し、退院支援し在院日数の短縮に取り組めます。

高齢・独居・介護負担軽減等を視野に入れ、患者さんや家族の気持ちを考える力を発揮し寄り添う看護展開に取り組めます。

業務の見直しを行い、働き方へのアプローチを検討します。

# 3病棟

## 令和7年度活動目標

- ・業務改善を行いタスクシェア・タスクシフトに取り組む。
- ・受け持ち看護師としての役割を果たし、患者家族に寄り添った個別的な看護を行う。
- ・院内・院外研修、病棟学習会に参加し、学ぶ姿勢を継続する。

## 令和6年度総括

患者カンファレンスは実施できましたが、ACPを意識した内容がなかなか織り込まれていませんでした。今後は看護の方向性に本人や家族の思いを反映させられるよう、緩和ケア委員を中心にカンファレンスの内容を検討していきたいと思えます。

心不全手帳は令和6年10月に完成しました。心不全再入院の頻度や再入院までの期間延長につながるよう生活指導時にどんどん活用していきたいです。

今年度は全員が研修に参加しました。参加を促した研修もありますが、自ら希望して参加した研修も多く、1人で複数の研修に参加するスタッフもいました。

また、学んだことを病棟学習会でスタッフへ伝え、フィードバックもできています。今後も学ぶ意識を持ち続け自己研鑽に努めていきたいです。

## スタッフ紹介

看護師・准看護師：23名（うち会計年度任用職員1名）

介護福祉士：1名（会計年度任用職員）

病棟看護補助者：6名（会計年度任用職員）

事務補助：1名（会計年度任用職員）

## 研修実績

看護研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：1名

新人研修 専門職としての第一歩：1名

実践 アドバンスケア・プランニング：1名

褥瘡ケア：2名

看護職員認知症対応向上研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：1名

看護補助者の活用促進のための看護管理者研修：1名

入退院支援：1名

看護倫理のすすめ：1名



災害支援ナース養成研修：1名

フィジカルアセスメント：4名

## メッセージ

3病棟は新生児から高齢者まで、幅広い年代の患者さんの看護を行っています。患者さんのもとより、患者家族と関わり、思いに寄り添った看護が提供できるよう努めています。また、循環器内科・腎臓内科・小児科の専門的な知識を養うため、研修に参加したスタッフが学んだことを病棟学習会で他スタッフへ還元し、日々の看護に役立てるよう努めています。今後も患者さんに寄り添う看護を提供できるよう努めます。

# 4病棟

## 令和7年度活動目標

- ・受け持ち看護師は患者を生活者として捉え退院後の生活まで見据えた看護展開ができる。
- ・看護師と看護補助者との協働を推進し、療養環境・看護の質を向上させるための業務改善活動に取り組む。
- ・自己研鑽、自己啓発を行い専門的知識を深め、安心安全なチーム看護を提供する。

## 令和6年度総括

令和6年度の病床稼働率は90.4%と急性期病棟の中で最も稼働率の高い病棟となりました。入院支援部門、多職種との初期カンファレンスを開催することで受け持ち看護師として個々の患者の生活を意識した退院支援や、外科・消化器疾患に即した退院パンフレットの作成を行い看護展開を行っています。

今後も生活者としての患者さんのADLやQOLを低下させない取組援助を心掛けていきます。

## スタッフ紹介

看護師・准看護師：25名（うち会計年度任用職員1名）

介護福祉士：1名（会計年度任用職員）

病棟看護補助者：6名（会計年度任用職員）

事務補助：1名（会計年度任用職員）

ベッドキーパー：2名（会計年度任用職員）

## 研修実績

認知症ケア加算3の施設基準に対応した研修：1名

新人看護職員卒後研修実施指導者研修：1名

実践 アドバンスケア・プランニング：1名

入退院支援：1名

臨床倫理のススメ：1名

看護必要度研修：1名

看護研究Ⅰ：1名



## メッセージ

外科・消化器内科の混合病棟で、手術から内視鏡検査・治療、がんの化学療法、ターミナル期の看取りの方まで様々なライフステージの方や消化器疾患に関わる幅広い臓器の疾患を対象としています。今後の労働人口減少と超高齢化に対応しながら地域や多職種、外来部門と連携し、患者さん家族の気持ちに寄り添い、入院治療を通して退院後の生活まで見据えた個別的な看護を提供できるようスタッフ一同努力しています。

# 5病棟

## 令和7年度活動目標

- ・患者さんを生活者としてとらえ、患者さん・家族が望む生活ができるように、受け持ち看護師として患者さん・家族に寄り添い役割を果たすことができる。
- ・業務整理を行い安心・安全な環境を整える。
- ・積極的に研修参加を行い自己研鑽に努める。

## 令和6年度総括

- ・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなど感染症患者の受入れも行いながら、高齢者の誤嚥性肺炎や骨折、脳血管疾患の急性期治療が必要な患者のスムーズな受入れができるようベッドコントロールを行った。また、面会に一部制限がある中でも、患者さんや家族に寄添って思いを傾聴する姿勢を心掛け丁寧に対応した。
- ・受け持ち看護師としての意識を高め、その責任を果たせるようにカンファレンスを実施したほか、患者さんの先を見据えた支援ができるように多職種と協力を図った。
- ・自己研鑽はスタッフ全員で取り組み、研修参加や動画視聴など活用して知識を増やしていった。

## スタッフ紹介

看護師・准看護師：25名（うち会計年度任用職員1名）

介護福祉士：2名（会計年度任用職員）

病棟看護補助者：6名（会計年度任用職員）

ベッドキーパー：1名（会計年度任用職員）

事務補助：1名（会計年度任用職員）

## 研修実績

認知症研修：1名

看護補助者の活用推進のための看護管理者研修：1名

入退院支援（基礎・応用）：各1名

実践 アドバンスケア・プランニング：1名

認定看護管理者教育課程セカンドレベル：1名

褥瘡ケア：1名

看護研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：1名

臨床倫理のススメ：1名

新人看護職員卒後研修実地指導者研修会：1名

呼吸療法（WEB）：1名

重症心身障害者の口腔ケア：3名

心電図検定対策特別講

終末期ケアについて：3名

フィジカルアセスメント：4名

心不全ケアを考える会：1名

災害看護：1名

出水地区他職種交流研修会

フィジカルアセスメントの基本と効果的な報告を学ぶ：2名



## メッセージ

5病棟は脳神経外科、整形外科、総合内科の急性期病棟です。高齢者の入院が多く、疾患によっては入院前と生活が異なる状態となり多職種で連携を図っていかねばなりません。患者さんや家族が目指す目標に向かい、回復期病棟や地域包括ケア病棟と連携して退院支援につなげていきます。患者さんや家族の不安を軽減できるように寄り添い、患者さんやその家族が望む場所で望む生活を送り続けられるように努めます。

# 6病棟

## 令和7年度活動目標

- ・患者さん・家族と療養の目標を共有し、退院支援を行うことで円滑な病床運営を図る。
- ・受け持ち看護師として定期的に振り返りを行い、多職種間で情報共有に努めることで質と効率を高める。
- ・回復期リハビリテーション病棟の特徴に応じた急変対応のスキルアップを目指す。

## 令和6年度総括

回復期リハビリテーション病棟入院料Iの施設基準である在宅復帰率70%、新規入院重症者割合4割以上、重症患者の退院時の回復率（4点以上回復が3割）等はクリアできた。他職種（OT,PT,ST,MSW）と連携した。ケアマネジャーなど外部とも連携しながらカンファレンスを行い、自宅や住み慣れた環境へ帰るための生活支援、退院支援を行った。

手指衛生や換気に努め、感染に注意しながら安全な入院生活が送れるよう援助した。

## スタッフ紹介

看護師・准看護師：17名（うち会計年度任用職員1名）

介護福祉士：3名（会計年度任用職員）      看護補助者：6名（会計年度任用職員）

事務補助：1名（会計年度任用職員）

## 研修実績

看護研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：1名

看護補助者の活用促進のための看護管理者研修：1名

実践 アドバンスケア・プランニング：1名

褥瘡ケア「予防と治療」：1名

看護職員認知症対応向上研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：1名

認知症患者の退院支援：1名

終末期ケアについての研修：4名

院内急変時対応研修：1名

呼吸器疾患看護研修：1名

フィジカルアセスメント：2名

糖尿病性腎症重症化予防：2名



## メッセージ

6病棟は回復期リハビリテーション病棟です。

多職種（OT、PT、ST、MSW、管理栄養士、ケアマネジャー）と連携し、初期カンファレンス、合同カンファレンス、退院カンファレンスを行い、患者家族の思いを確認しながら患者さんが生活の場に帰れるようにADL拡大を図り、個々にあった退院支援を行います。

また、スムーズな退院支援ができるよう受け持ち看護師の役割を発揮し支援してまいります。

# 外来(内科系)

## 令和7年度活動目標

- ・地域での療養生活継続を目標に、病棟とつながる看護を提供する。
- ・多職種、外来系の連携を図り、業務負担軽減を目指したタスクシフト・シェアを理解し実践する。
- ・個人がスキルアップ内容、分野を明確にし自ら計画的に実践する。

## 令和6年度総括

感染予防に努めながら外来患者さんの訴えや不安に丁寧に対応することを心掛け、地域に在住する患者さんをスタッフ全員で身近に支えていくことを目標とし、他職種とチームでの継続支援、看護につなげてきました。特に、令和6年度から心不全手帳を活用した療養支援を実践し、再入院患者減につなげることができました。さらに、生活習慣病入院による教育入院も開始しました。

また、原子力・地域災害、救急・循環器治療、腹膜透析に関連した専門的知識を学び、地域医療につながるよう研鑽にも取り組んできました。

## スタッフ紹介

看護師・准看護師：22名（うち助産師免許取得者1名、会計年度任用職員3名）

外来看護補助者：2名

事務補助：3名

## 研修実績

ADP（つなぐ・かぐや）について：10名

認知症看護：19名

PDの合併症と維持期の看護：13名

臨床倫理のすすめ：1名

レプロジル薬剤説明：5名

MDPPU予防について：13名

終末期ケア：12名

看護必要度SMBG：11名

PDの基礎知識：9名

寄り添う人のための「ほめる達人」講座：3名

鹿児島県公的病院等看護管理者会議倫理研修会：2名

宮崎看護科学研究会研修：1名

認知症ケア加算3の施設基準に対応した研修：1名

鹿児島県原子力災害医療研修（原子力災害時の医療）：2名

鹿児島県原子力防災訓練：2名



全国自治体病院学会：1名

CVポート穿刺の介助：6名

バイオ後続品について：9名

個人防護服着脱：10名

PD・JMS製について：15名

臨床倫理のすすめ：1名

シミュレーション研修：1名

フィジカルアセスメント：5名

循環器疾患患者の看護：1名

## メッセージ

内科系外来は、一般内科・総合内科・循環器内科・腎臓内科・健康管理科を中心に、地域における救急医療から予防医療更に生活習慣に関わる疾患の診療を担っています。

また、糖尿病代謝内科・呼吸器内科・血液内科・脳神経内科・動脈硬化外来・心臓血管外科は週1～2回非常勤医師が診療を行っており、多種にわたる専門的疾患患者が安心して安全に診療を受けていただけるような支援・看護提供を心掛けています。

加えて小児科・眼科・放射線科・婦人科の診療も担い、特に循環器関連では診断、治療を目的とした検査や緊急性も高いため、専門的な知識や技術、最新治療・看護学を学びつつチームで質向上を目指しています。

今後、外来一本化に向けて診療情報管理を行い、業務の効率化とともに多職種と連携しながら更により良い支援、看護とはなにか、安全な医療提供に努めていくよう学びを深め、継続した支援につなげることを目指します。

# 外来(外科系)

## 令和7年度活動目標

外来一本化を目標に、適切な人員配置と業務の効率化に協力し、他職種とも連携を図りながらよりよい外来看護の提供に努める。

## 令和6年度総括

外来全体で応援体制を推進した。救急外来への応援や、入院患者が多いときは、病棟への応援を行い、配薬準備などにも協力しました。

外来診療の少ない時間には、他部署へ応援に行く意識が定着しました。

退院後初受診の関わりが定着し、患者さんの生活状況を医師に伝えることができました。

業務やマニュアルの見直しを図り、働きやすい職場作りに努めました。

## スタッフ紹介

看護師・准看護師：12名（うち会計年度任用職員3名）

事務補助：2名（会計年度任用職員）

## 研修実績

看護研究の基礎Ⅰ・Ⅱ

看護研究のまとめ

認定看護管理者ファーストレベル研修

災害看護レベルアップ研修：2名

第69回日本透析医学会

フィジカルアセスメント

小児のフィジカルアセスメント

呼吸不全患者の看護

CKD予防と看護

循環器疾患患者の看護

急性期の呼吸管理と看護：2名

救急看護学会

災害支援ナース養成研修

JNTECプロバイダー

DMAT隊員養成研修



## メッセージ

脳神経外科では、神経の中核である脳の疾患に対する定期的な受診と治療に対するサポートを行います。

整形外科では、加齢による関節の痛みや運動機能障害、突然の病気やけがによって生じた麻痺や運動機能の回復や治療をサポートします。

救急外来では、急な病気や交通事故・外傷などに迅速な対応ができるよう心掛けています。

困っている患者さんに寄り添える外来看護を目指します。

# 外来(消化器疾患センター)

## 令和7年度活動目標

- ・地域での療養生活継続を目標に病棟とつながる看護を提供する。
- ・多職種、外来系の連携を図り、業務負担軽減を目指したタスクシフト・シェアを理解し実践する。
- ・個人がスキルアップ内容、分野を明確にし自ら計画的に実践できる。

## 令和6年度総括

患者さんが安全・安心に検査や治療が受けられるように努めた。外来でカンファレンスを行った患者さんだけでなく、通院中の患者さんが入院した場合は病棟の初期カンファレンスや退院カンファレンスに参加し情報共有を行い、社会福祉士や病棟・訪問看護師等との連携に努めた。

また、がん告知には緩和ケア認定看護師を中心に寄り添い、安心して治療を選択できるように支援した。

## スタッフ紹介

看護師：13名（うち会計年度任用職員3名）

外来看護補助者：1名                      事務補助：2名

## 研修実績

第3回看護研修会「終末期ケアについて」～病院（施設）・在宅の立場から：2名

第13回内視鏡検査周術期管理の標準化に向けた研究会：1名

第86回九州消化器内視鏡技師学会：2名

出水地区多職種交流研修会：1名

鹿児島県肝炎医療コーディネーター養成講座：2名

令和6年度鹿児島県原子力災害時医療研修：1名

鹿児島県肝疾患診療連携ネットワーク研修会：1名

地域でつなぐACP～専門職コース：1名

令和6年度被ばく傷病者対応訓練：1名

第39回日本がん看護学会学術集会：1名

看護連盟3支部合同リーダーⅡ研修「人材確保」：1名



## メッセージ

消化器疾患センターでは、外科的な処置や内視鏡検査、内視鏡下での処置など高度な医療を提供できるよう取り組んでいます。

化学療法室では安心・安全に点滴治療が受けられるようサポートしています。

近年、地域の訪問看護師の方々の活躍が目覚ましく、連携強化に努めました。外来看護師は「医療」と「生活」の両方の視点を持つ必要があります。いろいろな健康の段階にいる方に寄り添いながら、多職種で力を合わせて生活の場での療養が少しでも長くできるよう今後とも努めてまいります。

# 人工透析室

## 令和7年度活動目標

- ・相手の気持ちに寄り添った看護を行う。
- ・ペアナーシングで、安心・安全な環境を提供する。

## 令和6年度総括

今年度は安心して透析治療を受けれるよう環境や手順の見直しを進めてきました。今後も、安全な透析治療の維持に努めてまいります。

多職種と連携し情報共有を行い、相手の気持ちや状況に応じた看護が行えるよう努めてきました。次年度も継続します。

## スタッフ紹介

看護師：8名（うち会計年度任用職員1名）

看護補助者：1名

## 研修実績

第11回鹿児島セーフティマネジメント研修会学術集会

日本栄養治療学会第15回支部学術集会

鹿児島透析医会学術講演会

第48回九州代謝栄養研修会



## メッセージ

高齢化が進むにつれて様々な合併症を抱える患者が増加しており、透析に関連した多くの知識、技術、ケアが必要となります。人工透析室は、医師、看護師、看護補助者、臨床工学技士、送迎スタッフが一つのチームとして関わることで安心、安全、安楽な透析を提供できるよう努めてまいります。

# 中央手術室

## 令和7年度活動目標

- ・ 効率的な業務改善を行う。
- ・ 手術を受ける患者さんの全体像を捉え周術期の看護を行う。
- ・ 自己研鑽に努め、組織貢献につなげる。

## 令和6年度総括

令和6年度は広い視野を持ち、業務改善を行うことを目標の一つにしました。他施設を2箇所見学させていただいたほか、手術看護学会にも参加し、業務改善につなげられたと思います。

また、安心して手術に臨んでいただけるよう、手術前の情報収集の仕方や患者さんとの関わりを改めて学習し、スタッフが全員同じように手術看護を行えるよう努めました。

## スタッフ紹介

看護師：10名

看護補助者：2名

## 研修実績

日本手術看護学会九州地区大会：3名

前原総合医療病院手術室見学：3名

鹿児島大学病院手術室見学：3名

看護協会研修「臨床倫理のすすめ」：1名



## メッセージ

脊椎手術や腹腔鏡手術など、高度な医療が増えてきています。自己研鑽を行って知識や技術を向上させ、安心して安全な手術の提供に努めています。

# 認定看護科

## 令和7年度活動目標

認定看護師の活動を広め、持っている知識・技術を患者さんや職員に提供し、他職種とともにによりよい療養が提供できるように努めます。

## スタッフ紹介

看護師：5名

## メッセージ

令和7年度に新たに設置された部署です。認定看護師は、各分野の研修を受け、高い知識と技術を身につけています。直接、患者さんへの看護ケアを行ったり、患者さんや職員からの相談を受け問題解決の支援を行います。また、院内のみならず、地域への支援も実施できるよう検討しています。



# 退院支援科

## 令和7年度活動目標

- ・他職種、他部門と連携したスムーズな退院支援を目指す。
- ・ACPシートを活用してカンファレンスを行い、患者さんの希望に沿った医療・ケアを退院後の生活の場へもつなげる。
- ・自己研鑽を行って退院支援に関する知識を深め、医療・介護・福祉の連携を図る。

## スタッフ紹介

看護師：3名

## メッセージ

令和7年4月から新たに退院支援科が設置されました。患者さんや御家族が退院後も安心して望む生活を実現できるよう、他職種と連携しながら看護の視点で退院後の生活環境、医療機関との連携、必要なサービス（訪問看護、訪問診療など）の調整など、退院後の生活をサポートします。



# 地域医療支援センター

## 令和7年度活動目標

- ・入退院支援に係る業務の整理を行い、スムーズな退院支援の充実を図る。
- ・社会情勢の変化に対応しうる知識を習得し、専門性を発揮する。
- ・連携機関との関係性の向上を図り、地域医療に尽力する。

## 令和6年度総括

- ・新人教育プログラムに準じて2名の新規採用の社会福祉士の養成と、クライアントへの援助の質の両立に努めました。
- ・社会福祉士と入退院支援看護師とのペア制を継続し、患者支援への充実にも努めました。
- ・連携医の会を1回、地域医療支援病院運営委員会を4回開催しました。
- ・開業医訪問にも力を入れ、連携強化に努めました。
- ・定期的な学習会開催、院外研修に率先して参加し、専門職としての知識の向上に努めました。

## スタッフ紹介

社会福祉士：7名  
事務員：6名（うち会計年度任用職員5名）  
〈資格認定取得〉

公認心理師：1名	心不全療養指導士：1名	精神保健福祉士：2名
社会福祉士実習指導者資格：4名	医療メディエーター：2名	
両立支援コーディネーター：2名	住宅環境コーディネーター：2名	
肝炎医療コーディネーター：1名	福祉用具プランナー：1名	介護支援専門員：3名

看護師：4名（うち会計年度任用職員2名）  
医師事務補助：17名（全員会計年度任用職員）

## 研修実績

鹿児島県医療ソーシャルワーカー協会 令和6年度第1回全体研修：2名  
看護研修会「寄り添う人の為の『ほめる達人』講座～心を照らすアカリコトバ～」：3名  
第72回日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会：3名  
鹿児島県MSW協会 令和6年度基礎研修前期・中期・後期：2名  
第11回鹿児島県セーフティーマネジメント研究会学術集会：2名  
チームが活性化する多様な個性や意見の引き出し方：1名  
2024年度がん相談支援センター相談員基礎研修：1名  
ワンチームで困難を乗り越える強い組織の作り方：1名  
心不全チーム医療を考える会～多職種で支える心不全医療～：1名  
第60回九州医療ソーシャルワーカー研修会ながさき大会：1名  
エイズ治療中核拠点病院における先駆的連携活動の実際：1名  
糖尿病に関する最新の話と多職種連携：2名  
第11回九州・沖縄ブロック地域相談支援フォーラムin長崎：1名  
終末期ケアについて：2名  
緩和ケア研修会：1名  
心不全におけるGDMTの現在地：2名  
がんの早期発見と早期治療：1名



## メッセージ

令和7年度の組織機構の再編に伴い、診療支援部から院長直属の地域医療支援センターに変更されました。

高齢者や認知症・合併症を有する患者さんのほか、独居、身寄りがいないなどの理由で支援が必要な患者さんが増加しています。緊急入院が7割を占める当院においては、今まで以上に今後の療養先検討に難渋することが予想されます。早期支援介入、外部連携の強化に努め、出水地区を支える基幹病院としての役割が果たせるよう取り組んでまいります。

# 医療安全管理センター

## 令和7年度活動目標

- ・ 職員の医療安全意识の向上のために、事例分析や危険予知活動を通して安全文化の醸成に努める。
- ・ 感染対策を徹底し、患者さんや職員の感染を防ぐとともに、感染対策意識の向上に努める。

## 令和6年度総括

- ・ 院内全部署で危険予知能力向上を目的としたKYT（危険予知トレーニング）、医療安全推進週間の実施、SAFETYNEWS（院内情報紙）の発行などを通して、職員全員の医療安全意识の向上に努めてきました。
- ・ 医療安全文化の意識を高めるために職員からのヒヤリハット報告数の増加に取り組み、前年度の2倍近い報告を得ることができました。
- ・ 手指衛生の推進や感染対策ラウンド等を通して、全職員の感染対策に対する意識向上を行いました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、面会再開や新型コロナウイルス感染症病棟の廃止など、継続できる感染対策に取り組みました。

## スタッフ紹介

看護師4名（専従2名、兼務2名）



## 研修実績

第18回医療の質・安全学会：1名

第25回日本医療マネジメント学会：1名

第10回鹿児島セーフティマネジメント研究会：2名

鹿児島県看護協会医療安全研修「ヒューマンエラーをなくしていくために」：1名

鹿児島県看護協会医療安全者研修「安全文化の醸成」と「危機管理」：1名

第38回日本環境感染学会総会：1名

## メッセージ

医療安全管理に関して、医療安全文化の醸成が図られるように、各部署のセーフティマネジャーと協働で院内巡視や医療安全推進週間の取組などを行い、積極的に活動を行っております。今後は集まったヒヤリハットデータから各部署の課題を明確にし、更に業務改善活動を推進したいと考えています。

感染管理は、医療施設にいる全ての人を感染から守ることが大きな役割です。各職員が感染対策に意識を持ち、患者さんや家族が安心して療養できるように取り組んでいます。また、感染管理に関する相談や質問も受けていますので、お気軽にお問合せください。

# 事務部

## 令和7年度活動目標

2次医療圏内の人口減少に伴い患者数が減少傾向にある中で、今後も病院経営を続けていくための方向性を具体的に検討し、全職員と共有を図りつつ最適化を目指す。



事務部長 高橋 正一

## 令和6年度総括

- ・創立100周年を記念するイベントや企画事業を実施し、病院の歴史を振り返るきっかけになりました。それと同時に101年以降の歴史を刻んでいくための決意を新たにしました。
- ・経営面では5年ぶりの赤字決算となり、厳しさを増しています。このような中、病院の今後のあり方を検討するための「将来ビジョン」を策定しました。

## スタッフ紹介

- ・総務課
  - 一般事務職：16名
  - 電気技術職：1名
  - 事務補助：11名（会計年度任用職員）
  - 施設管理員：4名（会計年度任用職員）
- ・医事課
  - 医療事務職：17名（うち会計年度任用職員11名）
  - 診療情報管理士：6名（うち会計年度任用職員2名）
  - 事務補助：6名（会計年度任用職員）

## メッセージ

医療センター将来ビジョンに掲載のとおり出水保健医療圏内の人口は西暦2050年には5万人強となり、出水市の現在の人口とほぼ同規模になります。

一方、医療需要は今年（令和7年）をピークに一貫して減少を続け、2050年には75%程度まで減少する見込みです。

このような環境変化の中で安定した病院経営を続けていくためには、絶えず医療提供体制の最適化を図っていく必要があります、公立病院も例外ではありません。

また、既に1医療機関だけでは提供が難しい医療サービスは、近隣の医療機関と機能分化を図っていかなければなりません。

ダウンサイジングというこれまで経験したことのない取組ではありますが、実現しなければ生き残れないという危機感を持って取り組んでいきたいと思っております。

# 総務課

## 令和7年度活動目標

目標：環境変化に柔軟に対応しつつ自らも変革を起こし病院経営をリードする。

- ・院内会議等の結果をスピーディーに運営に反映させる。
- ・各種委員会やプロジェクトチームの活性化を図り、医療及び経営の質を高める。
- ・医師、看護師、薬剤師等の確保対策として、訪問活動に努めるとともに奨学資金等貸与制度や各種広報媒体を積極的に活用する。
- ・医療情報システムの効率的な運用及び安定稼働に努める。
- ・快適な療養環境を整備するため、計画的かつ適切な施設管理に努める。

## 令和6年度総括

医師・看護師確保 … 放射線科医師1名、看護師11名

経営改善活動 … プロジェクトチーム活動の継続、市民グループ向けの出前講座を実施

施設環境整備 … トイレ洋式化事業、個別施設計画の策定

電算整備 … 医療情報システムの更新

経営状況 … 経常利益約3億7千万円の赤字

創立100周年記念事業 … 記念式典、特別講演会、記念誌発行、各種冠事業を実施

## スタッフ紹介

一般事務職：16名

電気技術職：1名

事務補助：11名（会計年度任用職員）

施設管理員：4名（会計年度任用職員）

<資格認定取得>

医療経営士2級：1名

医療経営士3級：1名

第3種電気主任技術者：1名

簿記能力検定上級：1名

3級ファイナンシャル・プランニング技能士：1名

## 研修実績

第62回全国自治体病院学会演題発表

「クレーム・トラブルへの対応とリスクマネジメント」研修

「問題社員・ローパフォーマーの労務管理」研修

「1日で分かる管理会計の基本と活用法」研修

コーチング研修

人事評価研修

経営分析システム講習

自衛消防業務新規講習

公正な採用選考のための研修



## メッセージ

総務課の業務は、人事・給与、財務会計、企画広報、情報システム、契約、物品調達、院内物流、施設設備の管理など多岐にわたります。直接患者さんや病院利用者と接する場面はほとんどありませんが、職員が働きやすいようサポートし、職員満足度を向上させることにやりがいを見出しています。また、業者との交渉、各種計画の立案、利害関係者との連絡調整など、他職種には負けない事務遂行能力を最大限活用し、病院経営を陰で支える重要な役割を担っていることに誇りを持って職務に当たっています。総務課はこれからもチーム医療の一員として、他職種と協働しながら病院経営に取り組んでいきます。

# 医事課

## 令和7年度活動目標

目標：診療報酬の的確な算定による安定的な収益体制を維持する。

- ・ DPC制度など診療報酬制度の適切な運用による診療報酬を算定する。
- ・ 診療報酬の請求漏れ対策の強化、職員の資質向上を図る。
- ・ 未収金の早期回収、法律事務所との連携を推進する。
- ・ 適切な診療情報の管理と情報発信を行う。

## 令和6年度総括

受付や計算・会計等の窓口業務及び保険請求業務など多岐に渡る業務を通じて、安定した収益につなげるため、近年益々複雑化する診療報酬制度をよく理解し、的確な診療報酬の算定及びその基礎となる診療録等の適切な管理を行いました。

また、患者さんに最初と最後に接する部署であり、「病院の顔」として重要な役割を担っています。患者さんやその家族への接遇を重視し、親切で丁寧に、そして笑顔で対応することを心掛けました。

## スタッフ紹介

医療事務職：17名（うち会計年度任用職員11名）

診療情報管理士：6名（うち会計年度任用職員2名）

事務補助：6名（会計年度任用職員）

<資格認定取得>

医療事務：19名

診療情報管理士：8名

がん登録実務初級認定者：3名

## メッセージ

安定的な収益の確保・増加のためには、「患者増」と「診療単価増」がポイントですが、地域の人口が減少していく

状況において、「患者増」をすぐに実現するのは難しいと思われます。一方、「診療単価増」は加算等の取得を適切に行い、年々複雑化する診療報酬制度において、その内容を正しく理解し請求することは、病院の収益に大きな影響を及ぼす医事課の大切な役割です。そのため、各部署と連携を密に取りながら、受診患者の状況、施設基準、診療体制及び診療内容などの算定機会を正しく捉えることが大切です。あわせて、より効率的・効果的に収益増が図れるよう、院内に情報発信することが重要であると考えます。

また、「病院の顔」となる部署として、今後とも親切で丁寧な、そして笑顔での接遇を日頃から心掛けます。



# DMAT(災害派遣医療チーム)

DMATとは、「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており※、災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team)の頭文字をとって略した呼び方です。※平成13年度厚生科学特別研究「日本における災害派遣医療チーム(DMAT)の標準化に関する研究」報告書より



出水総合医療センターDMAT隊員

令和7年4月現在、鹿児島県内22の病院で35チームが編成されています。

当院は平成9年3月に災害拠点病院に、平成24年12月にDMAT指定医療機関に指定され、DMATを設置しました。

令和7年4月1日現在、7名(医師1名、看護師4名、業務調整員2名)の日本DMAT隊員が在籍しており、県主催の訓練に参加するなど、災害に備えた活動を行っています。また、当院DMAT2チーム目の編成に向けて、医師の隊員養成を目指しています。

平成28年4月に発生した熊本地震では、益城町及び熊本市内の病院等で活動を行いました。被災した病院の被害状況の確認をはじめ、EMISの入力、軽傷者に対する診療、派遣先病院でDMAT本部の指揮を行うなど、状況に応じて様々な業務を行いました。

近年、日本各地で地震や豪雨による被害が増加しています。出水市では、平成9年の出水市針原地区土石流災害で多数の死傷者が出るなど、甚大な被害を受けました。平成18年の豪雨では米ノ津川が市街地の3箇所から越水し、市街地が広範囲に浸水しました。

また、出水市内には北東から南西に横切るように複数の活断層が存在しており、この出水断層帯で地震が起こればマグニチュード7.0程度と推定されています。

当院DMATは、出水市周辺や鹿児島県内をはじめ、大規模災害発生時に多くの命を救えるよう、訓練への参加や情報収集など機能強化に努めてまいります。

## 活動の様子



